

# 第1回地域連携推進会議 記録

日時 2025年11月8日(土)14:50~15:50

場所 貝塚こすもすの里 会議室

参加者（順不同）

利用者（貝塚こすもすの里自治会代表 Oさん・Hさん・Aさん）

貝塚市障害福祉課 職員（欠席）

町会長

貝塚こすもすの里家族会会长

貝塚市障害者基幹相談支援センター 職員

せんごくの里家族会会长（地域）

貝塚こすもすの里 施設長 河崎（司会）

## 1. 参加者自己紹介

各自、氏名を言い「よろしくお願ひします」と挨拶

施設での生活について質問

- ・ 「楽しいです」
- ・ 「ごはんがおいしい」
- ・ 「ひびきあいまつりは、楽しかった」

職員はやさしいか質問

- ・ 「やさしいです」
- ・ 「話をきいてくれる」

困っていることはないですか

- ・ 「ないです」
- ・ 「自動販売機に行きたい（もつと職員がいるといい）」

## 2. 障害者支援施設「貝塚こすもすの里」について

～成り立ちから現在まで～

- ・ 2001年7月1日、設立。貝塚市唯一の障害者入所施設。家族の協力と法人の理念が運動となり、開設が叶ったこと。
- ・ 全個室は当時、ほとんどなかった。現在の生活施設のモデルとなった。「当たり前の生活を送ることができる場所」が理念。
- ・ 施設のことで、特に問題は感じていない。オープンで風通しがよい施設。コロナで家族会が止まった。家族も高齢化した。家族の願いとしては「感染症対策のガードを下げる」とも思う。
- ・ 通所と入所の間の施設がない。「親と離れる練習をするための施設」が欲しい。ショートステイも、空きがないと使えず、「ロングショート」はほとんど使え

ない現実がある。

### 3. 障害者施設が求められているもの

- ・ 障害分野は他の保育・児童・介護などと違い「施設滞在（利用）期間が非常に長い」。職員も利用者もお互いをよく知り「安心した生活」「落ち着いた生活」に結びつけることができるが、状況は施設によってまちまち。
- ・ 滞在期間が長いが故の「利用者の高齢化」が全国的な課題となっており「介護についての理解、技能の習熟」など対応が求められている。
- ・ 日本では後期高齢者が「在宅生活が困難」になると老人ホームなど、高齢者施設に生活の場を移すことがほとんど。他の選択肢はほとんどない状態。高齢者施設の平均滞在期間は5～7年ほどと言われており、非常に短い。これは「人生の最後の時間が近くなった時に、自分一人だけで誰も知らない場所で、暮らさなければならない」という現実を招いている。「よく見知った人たちと、よく知った場所で安心して暮らすことができる」という当然のことが守られていない。反して「よく知った人たちと暮らすことができる施設」では滞在期間が9年以上と長い。これが日本の高齢者福祉の現実。デザインそのものを見直していく必要を強く感じる。
- ・ 虐待防止法、意思決定支援の実施義務化など、より「人権を守ること」「その人らしく生きること」が求められている。
- ・ 障害者の施設はいらない、地域で暮らせばいい、というがどこに安心して暮らせる場所があるのか。よく知った施設だから、安心して自分の家族を託すことができる。

### 4. 福祉避難所としての役割

～能登半島震災から学ぶもの～

#### 障害者入所施設「石川県精育園」視察から（パワーポイント）

- ・ 耐震基準を満たしていても、壁や廊下が割れ、電気・水道も途絶え「生活ができない状態」に急変。160名の利用者のほとんどを、他府県も含めた施設で受け入れてもらうしかなかった。探したのも自分たちで。未だに帰ってきてもらえる兆しはない。
- ・ 交通も寸断され、外部とのやり取りが非常に困難に。救援も滞り、自分たちで何とかするしかなかった。
- ・ 凈化水槽や、上水タンクが土地の隆起で使えなくなり、想定外のことが多く起きた。BCPは何の役にも立たず、根本的な考え方からの見直しが必要と痛感した。
- ・ 避難所でもないので、灯があると「助けて欲しい」と人が集まってくる。断る訳にもいかず、一時的に受け入れないといけない状態に。

- ・ 災害が起きると、市民はまず「一次避難所」に避難。その後、被災者の状況・受け入れ可能な施設（福祉避難所に指定された事業所）の状況を見て受け入れの判断をし、そこからしかるべき「福祉避難所」へと繋げられる、とされている。しかし現実は「誰でも受け入れなければならない可能性」は非常に高い。
- ・ 自治体などかの支援物資が届くかどうか分からぬ。今後、これまでの想定を超えた備蓄など準備が必要になってくるのではないか。これまでの「福祉避難所に対する考え方」を変えていく必要があると言える。

## 5. 施設見学

参加者に施設内を見てもらう。

- ・ 思っていたより広々していて、落ち着いている。近くにはいるが、こんなところがあるのをよく知らなかつた。
- ・ 浴室が非常に広い。現在では「個別浴」が主流、広すぎると「ヒートショック」などのリスクが高まる。日中は「作業など、取り組みができる活動的なグループ」と「高齢の方は入浴など、よりその人に合った時間の過ごし方のグループ」に分けることも必要。活動する人と、入浴など「豊かな生活」を過ごす人。「ちょうどいい」を探していく。

## 6. その他の意見

- ・ 町会で回覧など必要な時は「前月の初旬」までに町会長にお願いしていく。回覧に間に合わない。
- ・ 府道の拡幅が予定されているが、情報が入ってこない。町会とも情報の共有や、岸和田市との説明会なども共同できればと思う。